

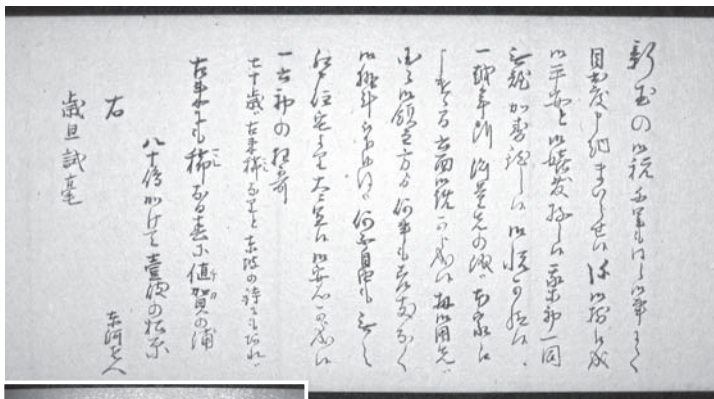
香取遺産

Vol.63

「貴重な資料が寄贈」

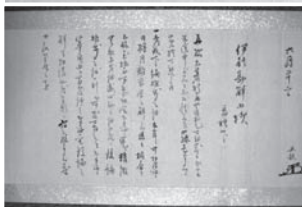
旧藤岡家蔵

伊能忠敬関係資料



▲伊能忠敬書状

◀江川英毅書状



7月10日に、横浜市の藤岡健夫さんから4点の伊能忠敬関係資料が寄贈されました。

ここに紹介するこれらの資料は、平成22年6月29日に国宝に指定された資料の中に、同様のものが含まれており、国宝級の価値があるといってもよい貴重なものです。

藤岡家は、明治・大正期の伊能家の当主である、景文・景德氏の娘が2代にわたって、嫁いだ家です。資料はそのとき伊能家から持ち参し、もともとは伊能家にあつたものです。

寄贈された資料の概要は次のとおりです。

伊能忠敬書状

文化10年（1801）正月に、娘

の妙薫にあてた直筆の手紙です。このとき、忠敬は九州を測量中で、70歳になつたため、次の歌を書きこんでいます。

「古来にも稀なる（古稀70歳の語源です）春に値賀の浦 八十島かけて壱岐の松原」

江川英毅書状

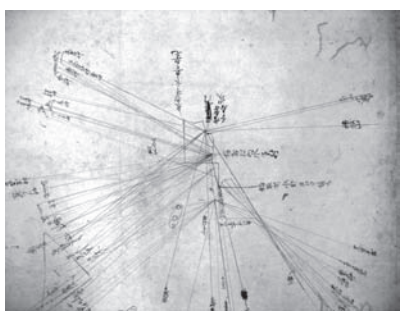
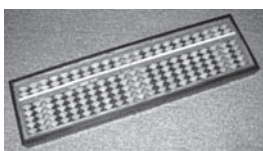
江川家は伊豆の韭山（現在の静岡県伊豆の国市）で代々幕府の代官を務めた家で、英毅は暦学を忠敬から学んでいました。この書状はいつのもか不明ですが、英毅が忠敬から借りた解説書で暦学書の『暦象考成下編』の計算方法がわかったことと、『暦象考成後編』の解説書を忠敬に貸してほしいと述べています。

伊豆国稲取村付近下図

享和元年（1801）5

月10日に測量した部分の下図です。

そろばん
伊能忠敬が、当時使用したと藤岡家に伝えられているものです。



問い合わせ
伊能忠敬記念館

☎(54) 1118